

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000033		
法人名	有限会社敬愛サービス		
事業所名	グループホームそるぶす豊幌		
所在地	北海道江別市豊幌美咲町2-2		
自己評価作成日	令和4年6月23日	評価結果市町村受理日	令和4年7月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0191000033-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0191000033-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」という理念のもと、入居者様一人ひとりの持つ様々な感情の中で、喜びや楽しみだけでなく、怒りや悲しみも全て受け止め、その人らしく充実した日常生活を送ることが出来るよう職員全員でお手伝いさせて頂いております。コロナ禍のため外出行事や地域の方々を招いたイベントが出来ない中で、施設内でできるイベント等を企画したり、日々の生活の中で入居者様に楽しみを持って頂けるよう工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市中心部より車で15分程の豊幌地区に位置し、近隣にはJR駅やコンビニがある静かで至便な環境下に立地している。法人は同地区において、もう1ヶ所グループホームを運営しており、地域密着型サービスとして、地域町内会や他法人の事業所等と相互の協力体制作り尽力してきた。職員は、コロナ禍で制限が多い中、感染防止に留意しながら、個別に近隣への散歩やドライブ等、短時間でも外気に触れる機会作りに努めている。利用者の楽しみである食については特に充実しており、テイクアウトの他、元職人であった管理者の手による握りを、寿司店さながらの演出で、注文を受けてからお好みを楽しんでもらう等、恒例の楽しみとなっている。家族には毎月、写真を添えた個別のお便りを送付し、利用者の生活状況や行事、食事内容等を家族に伝えている。今後も利用者の自立心、自尊心を大切に「充実した日常生活」となるよう、更なる尽力に期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ○ 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、エレベーターホールなど、職員が常に目の届く場所に掲示している。月1度のユニット会議開始前には職員全員で唱和し、確認している。	事業所理念を目につく場所に掲示し、いつでも振り返れるようにしている。主に会議の場で、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には、小学校にチラシを配布したり、町内会に回覧板を回したり、地域の方々も参加を呼び掛け、入居者様と関わりを持って頂くよう努めている。	コロナ前は、町内会、地域活動に積極的に参加していた。相互の自粛傾向の中、地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括の方々と連携しながら地域の方々へ向けた認知症の事を知って頂く研修を行っている。又、職員の中にはオレンジメイトとして活動を行っている者もいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様が来園された時には意見要望等聞くよう努めている。今年度はコロナウイルス感染予防の為、書面にて報告している。	コロナ前は家族、家族代表、地域代表、行政の参加を得て定例で開催していた。現在は書面開催となっているが、運営状況やヒヤリハット・事故等、現状の課題を報告し、委員から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表、管理者を中心に行っている。	市、地域包括支援センターから情報提供・アドバイスを得ている。また、包括主催の活動への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、身体拘束については会議等で確認し、職員間で共有している。また、身体拘束の研修後には資料の共有など行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、虐待も含め、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やユニット会議、社内研修にて学ぶ機会を設けており、虐待の防止を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他ユニットで以前後見人制度を利用している方がおり、会議等で説明を受け理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の説明の際には、専門用語を使用せず、十分な説明をして理解していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書に家族の要望を記入するところがあり、ご家族様は、それに記入して送り返してくれている。また、ご家族様が面会に来て下さった時には意見要望等を聞き取り、運営に反映させている。入居者様にはモニタリングで要望を聞き、職員間で共有している。	面会はガラス越しやリモート面会等、多様な方法について職員間で検討し、感染防止に留意・工夫しながら、弾力的に再開している。お便りで、生活・健康状態について、写真を添えて伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議に代表、管理者は毎回参加しており、日常業務の中で気づいたことや思ったことを伝えられるように努め、働きやすい職場を目指している。	月例のユニット会議や日々の申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々との聞き取りの時間を設け、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、外部研修を通じて、学ぶ機会を設け、経験の有無に関わらず高めあう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のグループホームとの研修や交流会を通してサービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様自身が戸惑っている様子や困りごと等に寄り添い安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安には出来る限り応え、安心して頂けるよう努めている。又、らい時にはご本人様の近況を伝え、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1つのサービスの説明だけでなく、現在の状態に必要な物、それに付随するサービスも併せて伝えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員という立場であるが、共に協力しあい、一つの家で暮らす家族のような関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じたご家族様の支援だけでなく、面会やご家族様も参加できるようなイベントも行うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間を設けず、いつでも面会に来ていただける環境を作っている。また、ご本人様の使っていた家具等はそのまま使って頂き、可能な限り安心できる部屋作り、生活環境作りに努めている。	コロナ禍において、現在は時間を制限しての面会としたり、電話連絡の頻度を上げることで、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が会話しやすいように必要に応じて職員が間に入り話題を提供したり、全員が参加出来るようなイベントを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様からの相談等あればアドバイスも行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取りや、日々の生活の中でお話を聞き、可能な限りご本人様の思いをくみ取るよう努めている。また、日常生活の中で会話した時に出た希望や要望などをケース記録に記載し共有している。	利用者本人からの意向の聞き取りに努め、職員間で共有している。家族からも情報を得て、定期的にあセスメントを行い、プラン化に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、フェイスシートをもとに過去の生活歴、ご本人様の思い等把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中の細かなこともケース記録に記録し、職員全員で共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を聞き、ケアプランを作成し、それをもとに月に1度のユニット会議にて話し合い、まとめている。	介護計画の作成は、個別に期間設定を行っており、状況変化時には都度検討し、見直している。日々のモニタリング結果を基に、全職員の視点で課題評価を行い、本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの内容、入居者様の些細な変化もケース記録に記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の声一つ一つに耳を傾け、ご家族様と積極的に連絡を取り、柔軟な支援を出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為行うことは出来ていないが、地域のお祭り等に職員と共に参加し、広く楽しんで頂けるよう努めていた。現在は職員の運転で近所の花畑を見に行く等工夫している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療にて日々の入居者様の情報を交換し、都度相談している。問題があれば、主治医の指示により医療機関を受診している。ご家族様へも早い段階での報告に努めている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、受診結果については、都度家族にも報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて入居者様の状態を報告、相談している。看護師は都度記録を主治医へ報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前、退院時に入居者様の状態を病院から提供して頂き、職員間で共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のご利用者様は、主治医との相談の元、ご家族様、入居者様の意向を可能な限りかなえられる様努めている。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は定期的に意向を聞き取り、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、応急手当の対応ができるようにしている。急変時の対応はご家族様の意向も確認した上でユニット会議等で確認し、職員全員で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の通報訓練、避難訓練を行っている。水、食料、発電機等を備蓄し、災害に備えている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	現在、法人として取り組んでいるBCP(事業継続計画)作成に併せ、家族、関係者への避難場所の周知等、計画の進展に期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様という認識を忘れず、言葉遣い、態度に注意しながら対応することで信頼関係を築いている。また、SNSに投稿する際は、事前に写真掲載の承諾書をいただいている。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々の声掛けやSNSを利用した広報等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント等で食事や、おやつで何が召し上がりたか希望を聞き、可能な限り希望に沿ったメニューを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々の趣味嗜好を尊重し、希望に沿ってその人らしい暮らしができるように努めている。また、トイレや居室での静養等、都度希望を聞き、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを把握したり、着たい服を自ら判断できるよう支援している。ご自分で行うのが難しい方には整容のお手伝いをさせて頂き、清潔な身だしなみを心がけている。2カ月に1回訪問理美容を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭き等、入居者様一人ひとりに合わせたお手伝いを職員と一緒にしている。また、廊下には毎日の献立を掲載している。	利用者の希望を取り入れ、季節感を大切にしたい食事を心掛けている。好きなお手伝いをお願いし、楽しんで調理に参加出来るよう、職員が工夫している。管理者による握り寿司の実演等で、外食気分を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事メニューは食材配食の業者のものを提供している。食分量や水分量は都度記録しており、職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを行い、入居者様一人ひとりの状態に応じたケアを行っている。週1回訪問歯科を利用しており、細かなことも相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿の感覚が乏しい入居者様へは時間を見て声掛け促しを行い、自立に向けた支援を心がけている。ケース記録の排泄欄を使用し、職員間で共有している。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。衛生用品も、個々に合った製品を定期的に見直し、使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の状態に応じた食事の形態の工夫は行い、主治医との相談の元、下剤の使用等無理のない範囲での支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入居者様一人ひとりの意向を確認し、職員とのコミュニケーションを丁寧にしながら、楽しんで頂けるよう努めている。	毎日お湯はりをし、個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、ゆっくり、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけでなく、入居者様一人ひとりの状態に応じて、日中居室にて静養して頂く等、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の作用を理解に努めている。また、状態を主治医、看護師に報告、連携し状況の変化にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの生活歴を理解し、日々のお手伝いやカラオケや塗り絵等のレクリエーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設敷地内の畑や花壇を見に散歩したり、近所の花畑へドライブしたり、楽しんで頂けるよう努めている。廊下には、写真を掲示している。	全体での外出行事は自粛しているが、個別に声掛けし、周辺の散策をしている。日常生活に運動を取り入れる等、職員は利用者の気分転換や心身の機能維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される入居者様へはご家族様との相談の元、少額の現金を所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ毎月の近況報告の送付を行っている。電話の取次ぎやお手紙のやり取り、年賀状の作成等、希望があればいつでも対応できるよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの配置等は入居者様一人ひとりの歩行、身体状態を理解した上で、しっかりと動線が確保されるよう配慮している。季節ごとにデイルームの壁、天井に装飾している。	陽当たりの良いリビングを中心に、和める雰囲気づくりに留意して、寛げる備品の配置や季節に合わせた飾り付けをしている。また、温・湿度の管理や換気等、健康に配慮した空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の性格や相性等に配慮した座席位置にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持参されたご家族様との写真や入居者様の作った作品等を掲示し、リラックスして頂ける環境作りに努めている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、自室として、安全に安心して過ごせる環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用している入居者様のための動線の配慮や、手すりの設置、トイレに目印をつける等工夫している。		